

## 人類学普及委員会シンポジウム（S4）

「中高生における人類学研究の最前線！」

オーガナイザー：松村 秋芳、米田 穰

10月12日（10:00～12:00）D会場

人類学普及委員会では、科学リテラシーとして人類の生物学的な特徴を中等教育で学習することを提案しています。私たちはどんな生物なのか、という普遍的な疑問を入り口に、進化や生態学、人種問題などに展開が可能です。本シンポジウムでは、中等教育の教員を主な対象として、中高生の好奇心を刺激する話題を提供します。とくに、佐賀市で発見された貴重な縄文時代早期の貝塚遺跡東名遺跡や、佐賀県で発見された古人骨について取り上げます。また、具体的な授業・実習案についても紹介する計画です。

### S4-1 出土人骨研究成果を歴史の授業に反映させる – 佐賀市東名貝塚出土人骨を例に –

○奈良 貴史<sup>1</sup>

<sup>1</sup>新潟医療福祉大学・リハ学部

### S4-2 佐賀県内で発見されている人骨とその研究

○川久保 善智<sup>1</sup>、竹下 直美<sup>2</sup>、大野 憲五<sup>2</sup>

<sup>1</sup>佐賀大・医・解剖人類、<sup>2</sup>佐賀大・医・法医

### S4-3 東名遺跡の重要性と今後の展望

○西田 巖<sup>1</sup>

<sup>1</sup>佐賀市教育委員会

### S4-4 博物館を利用した人類学総合学習の検討

○松村 秋芳<sup>1</sup>

<sup>1</sup>神奈川大・工

### S4-5 人類学の知見を取り入れた高校生物の実践

○市石 博<sup>1</sup>

<sup>1</sup>都立国分寺高校

### S4 中学生における人類学研究の最前線！

---

#### S4-1 出土人骨研究成果を歴史の授業に反映させる – 佐賀市東名貝塚出土人骨を例に –

○奈良 貴史<sup>1</sup>

<sup>1</sup>新潟医療福祉大学・リハ学部

1万年以上に渡った縄文時代だが高校の日本史の教科書においての記述量は全体の1%に過ぎない。しかしながら、数千体にも及ぶ縄文時代人骨は類を見ないほどの保存状態の良好な新石器時代の採集狩猟民の人骨群で世界史的な意義も高い。文字資料のない先史時代の解明に人骨資料は大きな役割を果たすが、その成果が高校の歴史の授業で活用されることは少ない。近年人骨研究は、形態学的検討ばかりでなく、ゲノム解析、安定同位体分析などの理化学的分析の格段の進歩に伴いこれまで以上に裾野を広げ多角的検討が可能である。今回東名貝塚出土の縄文時代早期人骨研究を例に人骨の人類学的検討が歴史教育にどのように貢献するのかを示す。

#### S4-2 佐賀県内で発見されている人骨とその研究

○川久保 善智<sup>1</sup>、竹下 直美<sup>2</sup>、大野 憲五<sup>2</sup>

<sup>1</sup>佐賀大・医・解剖人類、<sup>2</sup>佐賀大・医・法医

佐賀県内からは20世紀半ばから弥生時代や古墳時代の人骨が多数発見されてきた。中世や近世の人骨も、近年、徐々に発掘されるようになってきている。2008年、佐賀市富士町宗源院墓地から近世から近代の武家や住職の人骨が発掘され、これらの人骨は佐賀大学医学部で分析されることになった。今回はこのときに発掘された人骨の形態学的な研究成果の他、幕末に建造された三重津海軍所のドライドックの壁から発掘された周産期人骨など、近年、佐賀大学医学部で分析を行ったいくつかの事例を紹介する。

#### S4-3 東名遺跡の重要性と今後の展望

○西田 巖<sup>1</sup>

<sup>1</sup>佐賀市教育委員会

佐賀市に所在する東名遺跡は、縄文時代早期（約8,000年前）の集落跡で、居住地・墓地・貝塚・貯蔵施設がセットで確認され、全国的にみても希少な例として学術的価値が非常に高い遺跡である。貝塚には、縄文人たちの生業活動によって得られた動植物性遺存体が良好に残存し、当時の食文化はもとより、遺跡周辺が現在とは異なる生態系であったことを知ることができる。出土資料については多くの科学分析が行われ、考古学をはじめ、地質学や人類学、生物学等、様々な分野で多大な成果が得られている。遺跡は平成28年に国史跡に指定され、現在、整備計画の策定中である。今後、学校教育をはじめ様々な分野で活用されることが期待されている。

### S4 中学生における人類学研究の最前線！

---

#### S4-4 博物館を利用した人類学総合学習の検討

○松村 秋芳<sup>1</sup>

<sup>1</sup>神奈川大・工

初等中等教育で生物界におけるヒト（ホモ・サピエンス）の位置とその進化史に触れて児童生徒たちの興味を喚起することは、将来彼らがさまざまな学習場面で、ヒトの本質をより深く理解していくために有用と思われる。生物の一種であるヒトを総合的に学習する入り口として博物館の実物の展示を活用する方法がある。たとえば、縄文時代の遺跡を展示する博物館の見学は、狩猟採集生活と農耕生活の違いを身近な出土品を通して知ることにより、ヒトの進化史に関心を持つきっかけとなることが期待できる。各地の博物館を利用した校外学習や講座のいくつかの例を紹介しながら、博物館の発展的かつ効果的な活用法について考える。

#### S4-5 人類学の知見を取り入れた高校生物の実践

○市石 博<sup>1</sup>

<sup>1</sup>都立国分寺高校

最新の学習指導要領で人類進化について扱うことが明記され、初等中等教育においても最新の人類学的知見が活用されることが望まれている。本発表では、主に委員会編の副読本「つい誰かに教えたいくなる人類学63の大疑問」（講談社）の活用を目的に、高校生物で取り扱う進化などの単元で人類学の最新知見について活用に紹事例を紹介する。あわせて新学習指導要領の各教科の中で、人類がどのように扱われているかについても触れる。